

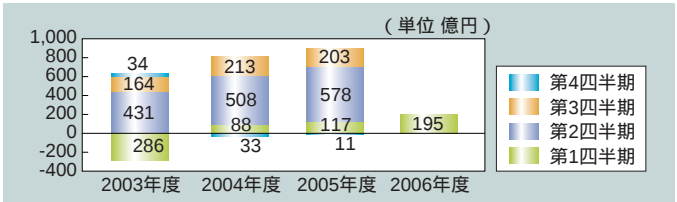
ANAグループ(連結)

本文中の記載金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てております。

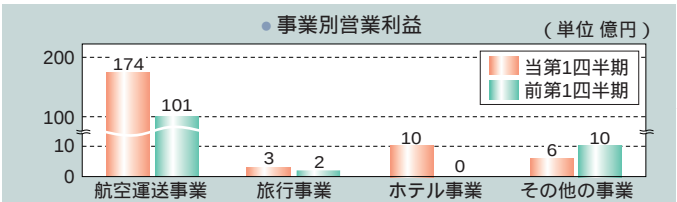
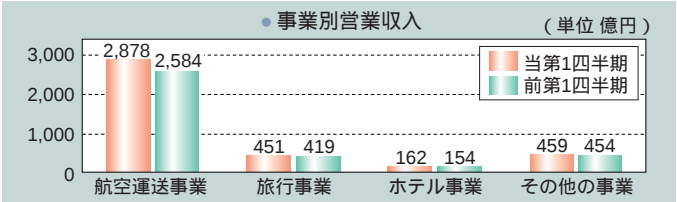
■ 第1四半期の概況

- 景気回復を背景に旅客需要が堅調に推移し、国内線、国際線ともに増収となり、主力の航空運送事業は増益となりました。
- 航空以外のセグメントにおいても引き続き全セグメントで黒字を達成することができました。
- 燃油価格の高騰により燃油費用は増加しましたが、適切な機材投入をすすめるとともに諸費用の抑制に努めた結果、営業利益は195億円、経常利益は144億円、当期純利益は76億円の黒字となりました。

■ 営業利益の推移



■ セグメント情報



(注) 上記事業別営業収入および営業利益には事業区分(セグメント)間の取引額が含まれています。

■ バランスシート

- 資産の部は、航空機の取得等により有形固定資産が増加しましたが、現預金が減少し、総資産は350億円減少しました
- 負債の部は、主に社債の償還により有利子負債が290億円減少し、負債合計では658億円減少しました
- 純資産の部は当期純利益の計上、配当金の支払いの結果、利益剰余金が18億円増加したほか、「繰延ヘッジ損益」が「評価・換算差額等」として純資産の部に組み入れられたこと等から、自己資本比率は23.1%になりました

連結損益計算書

(単位 億円)

	当第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	前第1四半期 (2005年4月1日から 2005年6月30日まで)
営業収入	3,452	3,123
営業費用	3,256	3,005
営業利益	195	117
営業外収益	17	20
営業外費用	68	75
経常利益	144	62
特別利益	0	0
特別損失	10	24
税金等調整前当期純利益	134	38
税金費用	56	18
少数株主損益	1	2
当期純利益	76	21

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 億円)

	当第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	前第1四半期 (2005年4月1日から 2005年6月30日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	173	22
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	498	9
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	349	356
4. 現金及び現金同等物の換算差額	0	2
5. 現金及び現金同等物増減額	675	322
6. 現金及び現金同等物の期末残高	1,752	1,310

連結貸借対照表

(単位 億円)

	当第1四半期 (2006年6月30日現在)	前期 (2006年3月31日現在)		当第1四半期 (2006年6月30日現在)	前期 (2006年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	4,719	5,303	流動負債	4,625	4,808
固定資産	11,589	11,354	固定負債	7,850	8,325
繰延資産	8	10	負債合計	12,475	13,134
			少数株主持分	—	71
			資本の部		
			資本金	—	1,600
			資本剰余金	—	1,256
			利益剰余金	—	526
			その他	—	80
			資本合計	—	3,463
			純資産の部*		
			株主資本		
			資本金	1,600	—
			資本剰余金	1,256	—
			利益剰余金	545	—
			自己株式	10	—
			評価・換算差額等	379	—
			少数株主持分	71	—
			純資産合計	3,842	—
資産合計	16,317	16,668	負債・純資産合計	16,317	16,668

*当第1四半期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」を適用しております。

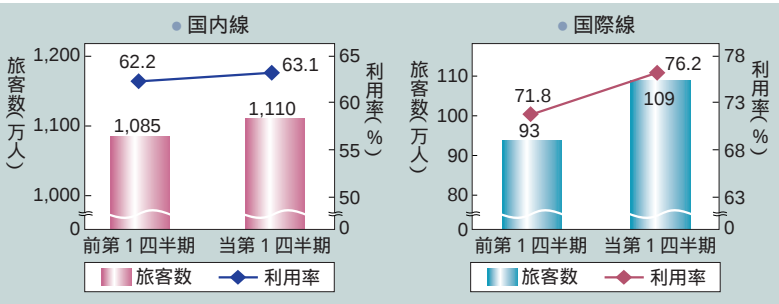
■ キャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益の増加等により、営業活動によるキャッシュ・フローは173億円となりました
- 航空機の取得による支出等により、投資活動によるキャッシュ・フローは498億円の支出となりました
- 借入金の調達・返済や社債の償還などにより、財務活動によるキャッシュ・フローは349億円の支出となりました

国内線・国際線動向

■ 国内線旅客

- 前年の愛・地球博の反動減や競合他社の路線参入に対処すべく、新運賃「旅割」を導入したほか、ボーイング767型機への「スーパーシート・プレミアム」設置、拡大など、他社との差別化による需要喚起策を推進
 - スカイネットアジア航空とのコードシェアの開始や需要に応じた便数、機材投入等、顧客のニーズにより一層きめ細かく対応
- 羽田発着路線を中心に堅調に推移し、旅客数は前年同期比102%、利用率も約1ポイントアップして、前年同期比103億円の増収に



■ 国際線旅客

- 全方面にわたりビジネス需要が好調であったことに加え、中国への旅行需要も回復
 - 投入機材の需給適合やPROS(将来の需要予測から便収入の最大化を計算する座席管理システム)によるイルドマネジメントも奏功
- 旅客数は中国線が対前年同期比120%となったのをはじめ国際線全体で対前年同期比116%となり、利用率も4.4ポイントアップし前年同期比123億円の増収に

■ 貨物

- 国際国内ともに荷動きは活発であったが、国際貨物は価格競争が激化
- 前年同期比で国内貨物輸送量は106%、国際貨物輸送量は105%で、国内は2億円、国際は13億円の増収に

航空運送事業の売上高

(単位 億円)

		事業年度	当第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	前第1四半期 (2005年4月1日から 2005年6月30日まで)	増 減
航空運送事業	国内線	旅客収入	1,673	1,570	103
		貨物収入	73	70	2
		郵便収入	21	18	3
		手荷物収入	0	0	0
		小 計	1,769	1,660	109
	国際線	旅客収入	650	527	123
		貨物収入	138	124	13
		郵便収入	7	6	0
		手荷物収入	1	1	0
		小 計	798	660	138
	航空事業収入合計		2,568	2,320	247
	その他の収入		310	264	46
	合 計		2,878	2,584	293

(注) 各収入は事業区分(セグメント)間の売上高を含んでおります。

輸送実績

		事業年度	当第1四半期 (2006年4月1日から 2006年6月30日まで)	前第1四半期 (2005年4月1日から 2005年6月30日まで)	前年同期比 (%)
国内線	旅客数 (万人)		1,110	1,085	102.3
	座席キロ (億席キロ)*1		152	150	101.5
	旅客キロ (億人キロ)*2		96	93	102.9
	利用率 (%) *3		63.1	62.2	+0.9
	貨物輸送量 (千トン)		107	100	106.8
	貨物輸送量 (百万トンキロ)		104	97	106.6
	郵便輸送量 (千トン)		20	18	109.4
国際線	郵便輸送量 (百万トンキロ)		22	20	110.6
	旅客数 (万人)		109	93	116.2
	座席キロ (億席キロ)*1		64	62	104.0
	旅客キロ (億人キロ)*2		49	44	110.5
	利用率 (%) *3		76.2	71.8	+4.4
	貨物輸送量 (千トン)		61	57	106.8
	貨物輸送量 (百万トンキロ)		282	266	105.8
	郵便輸送量 (千トン)		3	3	108.5
	郵便輸送量 (百万トンキロ)		16	14	112.0

(注) *1. 座席キロ:(座席数)×(運航キロメートル)
*2. 旅客キロ:(旅客数)×(運航キロメートル)
*3. 利用率:(旅客キロ)÷(座席キロ)
4. 国内線にはBEXエアラインズ(株)、北海道国際航空(株)およびスカイネットアジア航空(株)とのコードシェア便実績を含みます。
5. 国際線にはユナイテッド航空(成田～ニューヨーク線、関西～ホノルル線)およびエバー航空とのコードシェア便実績を含みます。
6. 国内線、国際線ともにチャーター便実績を除いております。
7. 国内線深夜貨物定期便実績を含みます。